

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部 of 学生でも学べる《NGU 教養スタンダード科目》を開設しています。《NGU 教養スタンダード科目》は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような 3 つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実が、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、全学生に配付したノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修

文部科学省は「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は「Center of Community」の略で、「地域再生の核となる大学」という意味です。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内の学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」				
② 課題解決型授業（PBL）				
③ 地域志向型科目（各学部専門科目）				
④ 教育イベント「地域フォーラム」				

- ① 全学生が参加する **1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「**まちづくり提言コンペ**」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開講するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」（減災福祉のみ）で継続受講することも可能です。
- ③ 各学部の専門科目において、地域を学修対象とした**地域志向型科目**を開講しています。
- ④ 全学生が参加する **3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。専門科目としての演習科目やゼミなどで学修・研究した成果を広く地域へ発信します。

初級まちづくりマイスター

まちづくり分野（地域商業・減災福祉）で開講している「まちづくり学」「まちづくり演習」科目の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

リハビリテーション学部 理学療法学科

教育目標（学則第3条の2より）

理学療法学科は、高い倫理観を根底にもち、人の尊厳を考えて、医療・保健・福祉の分野で活躍できる専門的職業人として理学療法士の養成を目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

リハビリテーション学部理学療法学科に所属する学生は、学部のカリキュラムを履修、学修することを通して以下の能力を身につけることができる。これに併せて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生に、リハビリテーション学部から学士（理学療法学）の学位を授与する。

専門知識・技能

- 1) 専門職として必要とされる観る力、聴く力、伝える力を身につける。
- 2) 基礎医学領域の知識を身につける。
- 3) 理学療法専門領域の知識と技術を身につける。
- 4) 習得した知識と技術を用いて、理学療法評価および治療を実践できる。

問題解決能力・科学的探究心

- 1) 最新の情報を収集、理解できる能力を身につける。
- 2) 情報を整理して把握し、客観的な判断に基づき原因を考えることができる。
- 3) 論理的思考に基づき解決策を立案することができる。
- 4) 問題の解決に向け、積極的に行動することができる。
- 5) 科学的根拠の構築の必要性を理解し、探求心をもって理学療法の検証ができる。

理学療法学を学ぶ学生としての態度

- 1) 自身の行動の省察に基づいて、自身を成長させ続けることができる。
- 2) 他者と連携・協働することができ、強い責任感を持って自身の役割を担うことができる。
- 3) 理学療法士の社会的責任を理解して行動できる。
- 4) 協働意思決定*の重要性を理解し、対象者本位の理学療法が提案できる。
(* shared decision making)

豊かな人間性

- 1) 幅広い教養を身につける。
- 2) 価値観の多様性を理解する。
- 3) 他者の感情を察し、理解することができる。

国語力

- 1) 思考力・対話力・表現力を養うための基本であり、文化の基盤である国語力を身につける。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

リハビリテーション学部では、リハビリテーションに関わる科学的知識および根拠にもとづいた技術を修得し、医療、健康と福祉に貢献できる人材を養成することを教育の目標としている。また、リハビリテーションに関わる専門職としての役割を認識し、対象となる人々や社会のニーズに的確に応えられる理学療法士の育成と、社会に貢献できる医療・医学研究者としての素地を培うことを教育の基本に据えて、理性に裏打ちされた責任あるプロフェッションとして積極的に活動できる能力を養う。このような理念のもと、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるために、次のような教育内容、教育方針、学修成果の評価の方針にのっとり、カリキュラム編成と授業実施をおこなう。カリキュラムの体系性、各授業科目とディプロマ・ポリシーとの対応は、リハビリテーション学部のカリキュラム・マップおよびモデル・コア・カリキュラムで明示する。

教育内容

- 1) カリキュラムは《NGU 教養スタンダード科目》および《学科専門教育科目》で構成する。
- 2) 全学生を対象とした《NGU 教養スタンダード科目》では、「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」をはじめとして、大学の学修に必要な基礎的技能を学ぶ科目、キャリア形成に関する科目、日本語・語学・情報に関する科目、歴史・文化・社会・自然・人間・生命・地域に関する科目などを履修する。
- 3) 学科専門教育科目は、《専門基礎科目》、《専門実践科目》、《実践連携科目》で構成しており、系統的・体系的に科目を履修する。
- 4) 1 年次から 4 年次まで少人数の演習科目を配置し、担当教員がクラスアドバイザーとなり、専門的学修指導とともに生活上の助言・指導をおこなう。

教育方法

リハビリテーション学部の専門教育科目の多くは系統的に学修を進めなければ効果的な学修成果を得ることが困難であり、科目履修の順序指定をおこなっている。科目履修の順序指定とは、ある授業の履修を希望する場合、それ以前に指定された授業科目を履修していなければ、その授業科目を履修することができないという制度であり、リハビリテーション学部では（A の授業科目）→（B の授業科目）→（C の授業科目）の順序で履修し、それぞれの単位を修得していかなければならない。

その上で、学生の主体的な学びを引き出すため、ICT 技術の活用、少人数・双方向型の授業の推進を図るとともに、授業外の学修、国家試験対策などについて適切に指導する。

学修成果の評価

- 1) 学科専門教育科目ではモデル・コア・カリキュラムに各科目で修得すべき必要最低限の知識を到達指標としてあげており、原則として試験などの成績および平常点等で客観的にかつ総合的に評価する。
- 2) 医療現場における臨床見学実習、検査測定実習、臨床評価実習、臨床総合実習Ⅰ・Ⅱでは行動指標に基づいて達成度を段階的に評価する。
- 3) 学修成果として GPA の他、学部のディプロマ・ポリシーに示す細目の達成度を評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

医療の専門的職業人を養成する本学部では、すべての教育課程が「人間とは何か」「よりよく生きるとはどういうことか」という問いかけとその解答を求める行動に集約される。そのためにはさまざまな領域の学問に関心をもち、現代社会が抱え

る課題に立ち向かおうとする気概を強く育てることが求められる。自己の生涯目標を明確にし、他者の生活の安定と健康の維持を常に意識することができる人間となることは、専門分野の知識と先端的技術の飽くなき追求によって達成できる。同時に、深みのある人間となるためには、広い教養と地域・個人に固有の文化への理解が必要である。それらを統合的に身につけ、積極的に行動できるようなプロフェッションをめざして意識的に学修に励む学生を受け入れる。

求める学生像

以下の要件を備えた学生を求めている。

- 1) 建学の精神を尊重し、他者へのいたわりの精神を備えている者
- 2) リハビリテーション学部教育目標に共感し、学業の修得に強い意欲をもつ者
- 3) 理学療法士として社会や地域の医療、健康、福祉に貢献しようとする高い志のある者

入学時までに身につけるべき知識、能力など

- 1) 入学時までに学んだ教科や社会に関する基礎的、基本的な知識と技能
- 2) 基礎的、基本的な知識と技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

大学入学時までに培われた確かな基礎学力、リハビリテーション学部で履修する学修への適性、能力、意欲などを多面的・総合的に評価して入学者を選抜する。

カリキュラムの概要

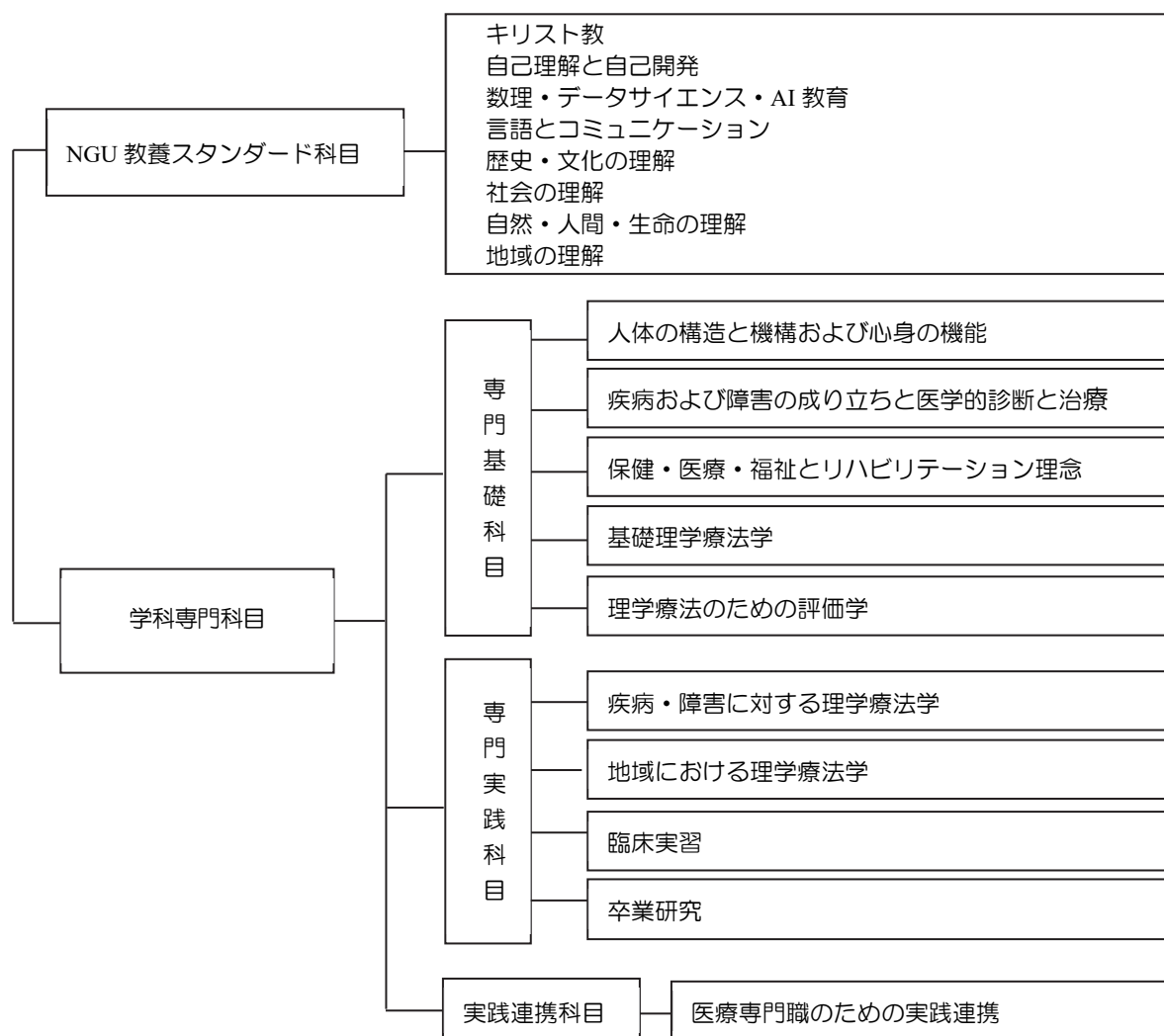
リハビリテーション学部理学療法学科のカリキュラムは《NGU 教養スタンダード科目》と《学科専門科目》からなり、《学科専門科目》は《専門基礎科目》、《専門実践科目》、《実践連携科目》で構成しています。カリキュラムと《専門科目》の特徴は以下のとおりです。

- 1) 《専門基礎科目》では、医学としての基本となる〈人体の構造と機構及び心身の機能〉、人体機能の低下や亢進によって起こる疾病・障害を理解し、治療へと発展するための〈疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療〉、社会構造における医療の成り立ちを理解するために〈保健・医療・福祉とリハビリテーション理念〉を置き、さらに本学部の基本である〈基礎理学療法学〉〈理学療法のための評価学〉を配置して基礎的な知識、技術の修得をめざします。
〈人体の構造と機構及び心身の機能〉には「解剖学 A・B」「生理学 A・B」「運動生理学」などを、〈疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療〉には「病理学概論」「内科学」「整形外科学」「臨床神経学」「精神医学」「小児科学」「リハビリテーション医学」などを、〈保健・医療・福祉とリハビリテーション理念〉には「地域包括マネジメント論」「チーム医療論」「ヘルスプロモーション論」などを配置します。〈基礎理学療法学〉には、「理学療法学概論」「運動学」「臨床見学実習」「医療統計学」「人間発達学」「専門セミナーⅠ・Ⅱ」などを配置し、〈理学療法のための評価学〉には「理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ」「バイオメカニクス」などを配置します。
- 2) 《専門実践科目》では、本学部の目的である理学療法について実践から応用にいたるまでの幅広い科目群として、医療的な個々の疾病・障害を実践するための〈疾病・障害に対する理学療法学〉、医療分野以外で理学療法を実践するための〈地域における理学療法学〉を配置します。
〈疾病・障害に対する理学療法学〉には「臨床理学療法学 A・B・C」「理学療法治療学」「物理療法学」「日常生活活動学」「義肢装具学」などを配置し、〈地域における理学療法学〉には「地域理学療法学実習」「リハビリテーション活動演習」を配置します。

これらを応用する＜臨床実習＞として、理学療法に関わる検査測定手技を学習する「検査測定実習」、理学療法評価を中心とした「臨床評価実習」、評価から治療計画を立案し実践する「臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ」を配置します。さらに、＜臨床実習＞をより円滑に進めるために必要とされる知識・技術を整理する「臨床実習指導」を配置します。

- 3) ≪実践連携科目≫では、理論に裏打ちされたプロフェッションの育成を教育の基本方針にあげていることから、医療専門職としてのあるべき姿を培うべき科目群＜医療専門職のための実践連携＞を配置し、「理学療法学研究法演習Ⅰ・Ⅱ」「理学療法管理学」「理学療法学応用セミナーA・B」を配置します。

＜リハビリテーション学部理学療法学科の科目の体系＞



カリキュラム上の特色

① キリスト教主義教育による人間理解とケア精神の涵養

キリスト教主義による人間教育により、「人間らしく、よりよく生きる」ための精神を養い、「心身ともに健康で安らかに生きようとする人間を思い、ともに支え合いながら、かつ困難に直面する人びとの生活を支援できる精神ならびに高度な知識や技能を兼ね備えた人材」の育成をおこないます。また、これによって、人間理解を豊かにさせ、かつ困難に直面して生きようとする人間を思い、支援することのできるケア精神を涵養します。

② 現代を生き抜く専門職業人としての基礎的知識と教養および能力の修得

現代の専門職業人として不可欠な日本語表現力と英語コミュニケーション能力、ならびに高度情報社会に求められるコンピュータ活用能力を養い、あわせて現代人に必要な幅広い教養や基礎知識を修得します。

③ 専門職業人としての社会への適応能力の修得

保健・医療・福祉の多種多様なサービスの要求に適応できる基礎知識と疾病・障害に対する高度な医学知識に支えられた技術をもって幅広いリハビリテーション領域において対応できる専門的能力を修得します。

④ 高度な倫理観を備えた人材の育成

豊かで深い人間理解とからだやこころ、ひいては社会にいたる広範囲な健康および疾病の理解を基本に、生命に対する高い倫理観を備えた人材を育成します。

1) リハビリテーション学部について

＜教育課程の基本方針＞

① 卒業所要単位数は 129 単位とします。

② 授業科目を《NGU 教養スタンダード科目》、《学科専門科目》のいずれかに配置し、教育課程の体系化・整合化をはかるとともに、学習内容の系統性や学修領域間の関係および教育課程の階層性や専門領域外の分野の必要性を理解します。

③ 《学科専門科目》には、理学療法学の専門特性に特化した科目を配置しています。

④ 学部の教育領域の性格上、実習、実地研修が重要であり、4 年間にわたる学修課程のバランスの適正化がはかられています。

別表としてあげているカリキュラム表は、理学療法学の教育課程（カリキュラム）の編成方針にもとづき、それぞれの授業科目の単位数と配当年次を示したものです。このカリキュラム表に従って、各年度、各学期に開講される授業科目が決められ、「授業時間表」として提示されます。みなさんは、提示された「授業時間表」にもとづいて履修する授業科目を決め、自分自身の時間割表をつくることになります。その際、卒業要件や履修上の制限などを十分考慮する必要があります。

2) リハビリテーション学部の科目履修順序

系列的に学修を進めなければ効果的な学修成果を得ることが困難な授業科目について、次のとおり科目履修の順序指定をおこなっています。科目履修の順序指定とは、ある授業科目の履修を希望する場合、それ以前に指定された授業科目を履修していなければ、その授業科目を履修することができないという制度です。これらの授業科目を履修するときには、（A の授業科目）→（B の授業科目）→（C の授業科目）の順序で履修し、それぞれ単位を修得していかなければなりません。

※ リハビリテーション学部履修規程細則 別表 2（諸規程 P221）参照

3) モデル・コア・カリキュラム

リハビリテーション学部の専門科目は基礎医学から臨床医学、理学療法学と多岐にわたっており、学生は何をどこまで学べばよいのか迷うこともあります。リハビリテーション学部では、学修の指標となるように、理学療法士をめざす学生が修得しておくべき知識や技術などの具体的項目を、それぞれの専門科目ごとに説明したモデル・コア・カリキュラムを作成しており、2017 年度からは冊子として学生に配布しています。学生はモデル・コア・カリキュラムを学修の指標とし、シラバスを参考にして、授業の進行に合わせて自ら予習、復習することが大切です。

(1) 実習の構成と概要

臨床実習は、「臨床見学実習」「検査測定実習」「臨床評価実習」「臨床総合実習Ⅰ」「臨床総合実習Ⅱ」および「地域理学療法学実習」、これに加えて、臨床実習をより円滑に進め、実習を振り返ることによる経験の定着を目指した「臨床見学実習指導」「臨床実習指導」で構成しています。すべての臨床実習は指導者による指導のもとでおこないます。「臨床見学実習」においては、実際の医療現場における臨床場面を見学します。「検査測定実習」では、理学療法の対象者との関係性を構築し、基本的な検査・測定を遂行します。「臨床評価実習」では、理学療法のプロセスを理解し、情報収集、検査・測定項目の抽出、問題点の抽出、目標設定、理学療法プログラムの選択を理解・遂行します。「臨床総合実習Ⅰ」「臨床総合実習Ⅱ」では、数種類の疾病や障害の症例を経験し、対象者に対する基本的な理学療法を遂行します。「地域理学療法学実習」では、地域包括ケアシステムに關与する関連専門職の役割や理学療法の位置づけ及び業務を理解・体験します。

各実習の開始にあたっては、各実習に対応した実習指導、実習ガイダンスをおこないます。また、臨床総合実習Ⅰの学外実習開始前には、学内実習にて実習前評価を実施します。実習期間中は、本学の理学療学科専任教員と学外臨床実習指導者が連携をはかり、実習を円滑に進めます。各学外実習終了時に、臨床実習指導者から実習評価を受け、学内での評価を通して実習の総合判定をおこないます。なお、臨床総合実習Ⅰ・Ⅱについては、臨床総合実習Ⅱの学外実習終了後に学内実習にて実践能力評価を実施し、学外実習指導者からの実習評価等とあわせて実習の総合的な評価判定をおこないます。

A) 「臨床見学実習」＜1単位 40～45時間 履修学期：1年次秋学期（集中）＞

実際の医療・介護施設における臨床場面を見学し、社会人・専門職としての態度を養い、対象者のもつ障害の多様性を認識し、対象者とのコミュニケーションをはかります。さらに臨床実習指導者の指導監督のもとに、理学療法業務を理解し、検査・測定を中心とした理学療法評価や治療場面を見学し、学内での講義、実習の意義・重要性を認識します。

a) 実習の方法

1施設に1～2名の学生の受け入れを依頼します。「臨床見学実習」は5日間で1単位です。学生は臨床実習指導者の指導監督のもとで実習をおこないます。なお、実習前後には「臨床見学実習指導」を学修します。

b) 実習の評価

- ① 全日程の4/5以上出席することで単位認定の資格を得ます。
- ② 臨床実習指導者が、実習評価表（資質、見学態度・姿勢、基礎知識などの評点制）に記載します。
- ③ 学生は、出欠表および実習記録報告書などを提出します。
- ④ 本学の理学療学科専任教員が①～③をもとに実習の評価判定をおこないます。

B) 「検査測定実習」＜2単位 80～90時間 履修学期：2年次秋学期（集中）＞

臨床実習指導者の指導監督のもとに、対象者を尊重したコミュニケーションをはかり、良好な関係を構築します。そして、学内での講義、実習で学んださまざまな検査・測定が対象者を理解するうえで、何がどのように必要かを理解し、遂行、記録します。さらに、各検査測定結果の関連性について理解します。また、実際の医療・介護現場の他職種構成チームにおける理学療法の位置づけと業務を理解します。

a) 実習の方法

1施設に1～2名の学生の受け入れを依頼します。「検査測定実習」は1週間で1単位とし、2週間おこない2単位です。学生は臨床実習指導者の指導監督のもとで実習をおこないます。

b) 実習の評価

- ① 全日程の4/5以上出席することで単位認定の資格を得ます。

- ② 臨床実習指導者が、実習評価表（資質、実習態度・姿勢、検査・測定に関する知識、技術および理解、基礎知識などの評点制）を記載します。
- ③ 学生は、出欠表および実習記録報告書などを提出します。
- ④ 本学の理学療法学科専任教員が①～③をもとに実習の評価をおこないます。

C) 「臨床評価実習」＜4単位 160～180時間 履修学期：3年次秋学期＞

臨床実習指導者の指導監督のもとに、理学療法士の業務を理解し、学内での講義、実習で学んださまざまな検査・測定が対象を理解する上で、何がどのように必要かを理解し、実践します。さらに、実施する理学療法の適応について考察し、診療録などの記載方法について実践します。

a) 実習の方法

1 施設に1～2名の学生の受け入れを依頼します。「臨床評価実習」は1週間で1単位とし、4週間おこない4単位です。学生は臨床実習指導者の指導監督のもとで実習をおこないます。

b) 実習の評価

- ① 全日程の4/5以上出席することで単位認定の資格を得ます。
- ② 臨床実習指導者が、実習評価表（資質、検査・測定、結果の分析・解釈、基礎知識などの評点制）を記載します。
- ③ 学生は、出欠表、実習記録報告書などを提出します。
- ④ 本学の理学療法学科専任教員が①～③をもとに実習の評価判定をおこないます。

D) 「臨床総合実習Ⅰ」（7単位）、「臨床総合実習Ⅱ」（7単位）

＜14単位 560～630時間 履修学期：4年次春学期＞

総合的に理学療法を体験し、リハビリテーションチームの一員としての役割を実践的に学びます。このため情報収集、対象者とのコミュニケーションに努めます。臨床実習指導者の助言・指導のもとに、基本的理学療法を遂行する能力を養います。

a) 実習の方法

1 施設に1～2名の学生の受け入れを依頼します。「臨床総合実習Ⅰ」・「臨床総合実習Ⅱ」は各6週間の学外実習（6単位、計12単位）をおこないます。「臨床総合実習Ⅰ」の1週目は学内で実習前能力評価（1単位）、「臨床総合実習Ⅱ」の7週目に学内で学外実習後の能力評価（1単位）をおこないます。学生は本学の理学療法学科専任教員および臨床実習指導者の指導監督のもとで実習をおこないます。なお、実習前後には「臨床実習指導」を学修します。

b) 実習の評価

- ① 全日程の4/5以上出席することで単位認定の資格を得ます。
- ② 臨床実習指導者が、実習評価表（資質、理学療法の進め方、治療計画・立案、理学療法の実施、基礎知識などの評点制）を記載します。
- ③ 学生は、出席表、実習記録報告書などを提出します。
- ④ 「臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ」においては、①～③および学内でおこなう実習報告・実践能力評価などをもとに、理学療法学科専任教員による総合的な判定をおこないます。

E) 臨床実習成果判定：「実習実技課題試験」

臨床実習で培ってきた知識・技術について、実践応用に関する演習をおこない、実践能力を評価します。評価に組み込む項目は医療面接、リスク管理および基本的検査測定とし、これらを含んだ課題を設定します。1名の学生が模擬患者に対して、課題をおこない、適切に実施しているかを理学療法専任教員が評価します。

F) 「地域理学療法学実習」＜1 単位 40～45 時間 履修学期：4 年次秋学期＞

通所（訪問）リハビリテーションの現場を見学し、地域包括ケアシステムに關与する關連専門職の役割を理解します。とりわけ、その中における理学療法の位置づけや理学療法業務を理解します。

a) 実習の方法

1 施設に 1～2 名の学生の受け入れを依頼します。「地域理学療法学実習」は 5 日間で 1 単位とし、うち 1 日は学内での学外実習前（0.5 日）・終了後の指導および実習報告（0.5 日）、4 日間を学外実習とします。学生は臨床実習指導者の指導監督のもとで実習をおこないます。

b) 実習の評価

- ① 全日程の 4/5 以上出席することで単位認定の資格を得ます。
- ② 臨床実習指導者が、実習評価表を記載します。
- ③ 学生は、出席表、実習記録報告書などを提出します。
- ④ 本学の理学療法学科専任教員が①～③をもとに実習の評価判定をおこないます。

(2) 実習の履修前提条件

以下の実習を履修するための前提条件を設けています。

「臨床評価実習」の履修前提条件

- 3 年次の履修登録期間終了時点の履修状況によっては、3 年次以降に配当される《学科専門科目》のうち、《専門実践科目》および《実践連携科目》を履修することができません。
- 3 年次春学期終了までに配当された《学科専門科目》におけるすべての必修科目の単位を修得していること

「臨床総合実習Ⅰ」「臨床総合実習Ⅱ」の履修前提条件

- 3 年次秋学期終了までに配当された《学科専門科目》におけるすべての必修科目の単位を修得していること

※ リハビリテーション学部理学療法学科臨床実習内規（諸規程 P223）参照

(3) 臨床実習の単位認定

実践的、効果的な臨床実習を実施するために、以下のように単位を認定します。

- 「臨床見学実習指導」の単位認定は、「臨床見学実習」を履修した後、総合的に判定します。
- 「臨床実習指導」の単位認定は、「臨床評価実習」を履修した後、総合的に判定します。
- 「臨床総合実習Ⅰ」「臨床総合実習Ⅱ」の単位認定は、履修後に総合的に判定します。

演習科目

1) 演習科目とは

リハビリテーション学部では、1 年次に「基礎セミナー」および「発展セミナー」、2 年次に「専門セミナーⅠ」および「専門セミナーⅡ」、3 年次に「理学療法学研究法演習Ⅰ」および「理学療法学研究法演習Ⅱ」、4 年次に「卒業研究」を配置し、それぞれの段階で少人数によるゼミナール形式の演習をおこないます。

- ① 「基礎セミナー」および「発展セミナー」は《NGU 教養スタンダード科目》の中に置かれている科目で、導入教育および基礎教育をフォローするための科目です。

「基礎セミナー」では、有意義な大学生活を送るために、名古屋学院大学について理解し、大学生活を送る上での基本的な心構え（ソーシャル・スチューデント・スキル）を養います。また、大学での学習方法、レポートの書き方、個人やグループでおこなう発表方法などを身につけます。

「発展セミナー」では、「基礎セミナー」で学んだ学習スキルを、実際に活用し応用できるように指導します。また不可欠な接遇、情報収集、プレゼンテーション、ディスカッションなどの能力と技術の向上、さらに学修に対する意識の向上をめざします。

- ② 「専門セミナーⅠ」および「専門セミナーⅡ」では、単に教養を身につけることを目的とせず、その過程において態度を身につけることを目標としています。グループ学習をとおしてチーム医療を実践する上で必要となる態度を養い、《学科専門科目》間の結びつけに重点を置いて科目間の縦横のつながりから幅広い視野での思考が展開できるようにします。きめ細かな教育のため、学科専門教育担当の専任教員による少人数制とし、多くのクラスに分けて実施します。

「専門セミナーⅠ」では、医学論文に馴染んでいくために、論文検索方法、読み方、まとめ方について学びます。前半は日本語論文を題材にして、グループ学習を実践し、その方法と重要性を学びます。後半には医学研究にかかわる基本的事項を学びます。また、「専門セミナーⅡ」では英語論文の抄読・発表と症例検討をおこないます。症例検討では知識の復習のみならず、ロールプレイなどによる実践をとおして理解を深めます。

- ③ 「理学療法学研究法演習Ⅰ・Ⅱ」では、専門領域で自らの関心を絞り込み、卒業研究テーマを模索しながら、情報収集、資料収集を通じて卒業研究テーマの基礎を学修します。
- ④ 「卒業研究」では、専門領域あるいは保健医療福祉に関する領域に係るテーマの中から、各自の関心、課題にもとづきテーマを設定するとともに、そのテーマに対し、それまでに得た知識・技術を用いた研究をおこないます。専門的研究の集大成として、研究成果を卒業論文にまとめます。

2) 演習科目の履修にあたって

学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題を解決しながら、能力の向上につとめるとともに、他者と積極的な交流をはかることにより、幅広い友人関係を育み、指導教員を含めた有機的なコミュニケーションを築くことが大切です。

3) 卒業研究の履修前提条件

「卒業研究」を履修するための前提条件を設けています。

- 「理学療法学研究法演習ⅠおよびⅡ」の単位を修得していること
- 3年次終了時の総修得単位数が90単位以上であること
- 卒業資格が得られる年度であること

リハビリテーション学部で取得できる資格

理学療法士

理学療法士（Physical Therapist：PT）とは、「理学療法士及び作業療法士法」という法令で定められる国家資格の名称です。理学療法士は、厚生労働大臣からの免許を受けて、おもに病院やリハビリテーション施設、介護保健施設、介護老人福祉施設などで、病気や事故などで障害を負った方に対して、基本的な動作能力を最大限に回復するよう、発揮できるようにするなどの、医学的リハビリテーションをおこなう専門職です。

理学療法士の仕事

病気や事故のために不自由になった患者の基本的動作能力の回復および障害の発生が予想されるものの予防をはかることです。医師の指示のもと、歩行・車椅子の練習や治療体操などの運動療法のほか、電気、温・寒熱、水、光線、力などの物理的エネルギーを生体に応用する物理療法、マッサージ療法などをおこないます。

理学療法士の活躍する場

病院や診療所などの医療サービスをおこなう施設、介護保険に関与するリハビリテーション施設、機能訓練事業・介護予防・子育て支援などの保健サービスをおこなう施設、市・区役所や養護学校などの行政サービス施設、健康管理やスポーツ分野などのトータルヘルスプラン事業などがあります。

免許

理学療法士の免許は、理学療法士国家試験に合格することで厚生労働大臣から理学療法士免許証が交付されます。国家試験は毎年1回実施され、理学療法学科を卒業することで、この国家試験の受験資格が得られます。

履修モデル

リハビリテーション学部教育課程では科目選択の自由度はあまりなく、特に卒業に要する単位の7割を占める「専門科目」の多くは理学療法士の資格取得に必要な必修科目で構成されていて、履修の順番も指定されているので、理学療法学科について系統的な学修ができるように履修モデルを設定しています。

〇リハビリテーション学部理学療法学科履修モデル（2023～）

科目区分		選択必修	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数計	卒業要件	
			春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期			
N G U 教養スタンダード科目	キリスト教	必修	キリスト教概説1	2 キリスト教概説2	2						4	4単位	
	自己理解と自己開発	必修	基礎セミナー	2 発展セミナー	2						4	4単位	
		選択										6単位以上※	
	情報処理リテラシー		2										
	英語・データサイエンス・AI教育	必修									2	2単位	
	英語とコミュニケーション	必修	基礎英語1 英会話1 日本語表現	1 1 2	基礎英語2 英会話2	1 1					6	6単位	
		選択										6単位以上※	
歴史・文化の理解	選択												
社会の理解													
自然・人間・生命の理解												6単位以上※	
地域の理解													
学 科 専 門 科 目	専 門 基 礎 科 目	必修	解剖学A 解剖学B 生理学A	2 2 2	解剖学A実習 解剖学B実習 生理学B 生化学	1 1 2 1	運動生理学 生理学実習	2 1					
			理学療法学科概論	1									
			運動学										
			臨床実習指導 臨床実習実習										
			理学療法評価学Ⅰ 理学療法評価学Ⅱ 理学療法評価学Ⅲ 理学療法評価学Ⅳ バイオメカニクス										
	選択												
	専 門 実 践 科 目	必修											
	実 践 選 修 科 目	必修											
		選択											
単位合計			17	15	19	18	15	19	14	129	129単位以上		

※「N G U 教養スタンダード科目」の選択科目から6単位以上

卒業要件

卒業要件単位の修得

リハビリテーション学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（129 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（129 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

科目大区分	科目小区分	科目領域	卒業要件	
			必修	選択
NGU教養 スタンダード科目	キリスト教		4単位	6単位
	自己理解と自己開発		4単位	
	数理・データサイエンス・AI教育		2単位	
	言語とコミュニケーション		6単位	
	歴史・文化の理解			
	社会の理解			
	自然・人間・生命の理解			
	地域の理解			
学科専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機構及び心身の機能	14単位	
		疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療	13単位	3単位
		保健・医療・福祉とリハビリテーション理念	2単位	2単位
		基礎理学療法学	12単位	
		理学療法のための評価学	7単位	
	専門実践科目	疾病・障害に対する理学療法学	19単位	2単位
		地域における理学療法学	4単位	
		臨床実習	21単位	
		卒業研究	2単位	
	実践連携科目	医療専門職のための実践連携	6単位	
必修・選択別小計			116単位	13単位
卒業要件単位数合計			129単位	

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
キリスト教				
キリスト教概説1	2		1	AC1101
キリスト教概説2	2		1	AC1102
聖書学		2	2	AC2301
キリスト教倫理		2	2	AC2302
キリスト教史		2	1	AC1301
自己理解と自己開発				
基礎セミナー	2		1	AU1101
発展セミナー	2		1	AU1102
キャリアデザイン1a		2	1	AU1301
ボランティア学		2	1	AU1302
ボランティア演習		2	1	AU1303
インターンシップ1		2	1	AU1304
インターンシップ2		2	1	AU1305
数理・データサイエンス・AI教育				
情報処理リテラシー	2		1	AI1101
データサイエンスリテラシー		2	1	AI1301
データサイエンス概論		2	2	AI2301
AI概論		2	2	AI2302
情報処理論		2	2	AI2303
言語とコミュニケーション				
日本語表現	2		1	AV1101
実用日本語表現法		2	1	AV1301
アカデミック日本語表現法		2	2	AV2301
基礎英語1	1		1	AV1102
基礎英語2	1		1	AV1103
英会話1	1		1	AV1104
英会話2	1		1	AV1105
実用英語1		1	2	AV2301
実用英語2		1	2	AV2302
情報英語1		1	2	AV2303
情報英語2		1	2	AV2304
歴史・文化の理解				
【教養】日本史		2	1	AW1301
【教養】世界史		2	1	AW1302
【教養】日本文学		2	1	AW1303
【教養】外国文化論		2	1	AW1304
【教養】文化人類学		2	1	AW1305
【教養】陶芸論		2	1	AW1306
【教養】陶芸演習		2	1	AW1307

授業科目名	単位数		配当 年次	ナンバ リング
	必修	選択		
社会の理解				
【教養】政治学		2	1	AO1301
【教養】国際政治学		2	1	AO1302
【教養】国際関係論		2	1	AO1303
【教養】平和学		2	1	AO1304
【教養】法学		2	1	AO1305
【教養】日本国憲法		2	1	AO1306
【教養】経済学		2	1	AO1307
【教養】経営学		2	1	AO1308
【教養】統計学		2	1	AO1309
【教養】社会学		2	1	AO1310
【教養】教育学		2	1	AO1311
自然・人間・生命の理解				
【教養】哲学		2	1	AN1301
【教養】心理学		2	1	AN1302
【教養】数学		2	1	AN1303
【教養】物理学		2	1	AN1304
【教養】化学		2	1	AN1305
【教養】地学		2	1	AN1306
【教養】生物学		2	1	AN1307
【教養】環境学		2	1	AN1308
【教養】スポーツ初級a		1	1	AN1309
【教養】スポーツ初級b		1	1	AN1310
地域の理解				
まちづくり学		2	1	AR1301
まちづくり演習		2	1	AR1302
上級まちづくり演習		2	2	AR2301

理学療法学科 専門科目

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング	
		必修	選択			
学科専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機構及び心身の機能				
		解剖学A	2		1	RL1101
		解剖学B	2		1	RL1102
		解剖学A実習	1		1	RL1103
		解剖学B実習	1		1	RL1104
		生理学A	2		1	RL1105
		生理学B	2		1	RL1106
		生化学	1		1	RL1107
		運動生理学	2		2	RL2101
		生理学実習	1		2	RL2102
		疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療				
		病理学概論	1		2	RL2103
		内科学	2		2	RL2104
		整形外科科学	2		2	RL2105
		臨床神経学	2		2	RL2106
		精神医学	1		2	RL2107
		小児科学	1		2	RL2108
		リハビリテーション医学	1		2	RL2109
		画像評価学	1		2	RL2110
		臨床薬学	1		3	RL3101
		救命・救急医学	1		3	RL3102
		臨床検査学		1	3	RL3301
		公衆衛生学		2	3	RL3302
		予防医学		2	3	RL3303
		保健・医療・福祉とリハビリテーション理念				
		地域包括マネジメント論	2		2	RL2111
		実践セミナー		1	2	RL2301
		チーム医療論		1	3	RL3304
		ヘルスプロモーション論		1	3	RL3305
		国際医療事情		1	2	RL2302
		基礎理学療法学				
		理学療法学概論	1		1	RL1108
		運動学	2		1	RL1109
		運動学演習	1		2	RL2112
		臨床見学実習指導	1		1	RL1110
		臨床見学実習	1		1	RL1111
		基礎理学療法学	1		2	RL2113
		医療統計学	2		2	RL2114
		人間発達学	1		2	RL2115
		専門セミナーⅠ	1		2	RL2116
		専門セミナーⅡ	1		2	RL2117
		理学療法のための評価学				
		理学療法評価学Ⅰ	2		2	RL2118
		理学療法評価学Ⅰ演習	1		2	RL2119
		理学療法評価学Ⅱ	2		2	RL2120
		理学療法評価学Ⅱ演習	1		2	RL2121
		バイオメカニクス	1		2	RL2122

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング	
		必修	選択			
学科専門科目	専門実践科目	疾病・障害に対する理学療法学				
		臨床理学療法学A	2		3	RL3103
		臨床理学療法学B	2		3	RL3104
		臨床理学療法学C	2		3	RL3105
		理学療法治療学総論	1		3	RL3106
		臨床理学療法学A演習	1		3	RL3107
		臨床理学療法学B演習	1		3	RL3108
		臨床理学療法学C演習	1		3	RL3109
		発達障害学	2		3	RL3110
		物理療法学	2		2	RL2123
		物理療法学演習	1		3	RL3111
		日常生活活動学	2		2	RL2124
		義肢装具学	1		3	RL3112
		義肢装具学演習	1		3	RL3113
		スポーツ理学療法学特論		1	4	RL4301
		臨床理学療法学特論		1	4	RL4302
		ペインリハビリテーション		1	4	RL4303
		リサーチ・スキルズ		1	4	RL4304
		クリニカルリーズニング		1	4	RL4305
		地域における理学療法学				
		地域理学療法学	2		3	RL3114
		地域理学療法学実習	1		4	RL4101
		リハビリテーション活動演習	1		3	RL3116
		臨床実習				
		検査測定実習	2		2	RL2125
		臨床実習指導	1		3	RL3115
		臨床評価実習	4		3	RL3118
		臨床総合実習Ⅰ	7		4	RL4102
		臨床総合実習Ⅱ	7		4	RL4103
	卒業研究					
	卒業研究	2		4	RL4104	
実践連携科目	医療専門職のための実践連携					
	理学療法学研究法演習Ⅰ	1		3	RL3116	
	理学療法学研究法演習Ⅱ	1		3	RL3117	
	理学療法管理学	2		4	RL4105	
	理学療法学応用セミナーA	1		4	RL4106	
	理学療法学応用セミナーB	1		4	RL4107	